

第2回 各務原市学校建替え基本方針策定委員会 議事録（要旨）

日 時	令和4年11月11日（金） 13時30分～15時30分
場 所	産業文化センター2階 第3会議室
出席委員	鈴木賢一委員長、服部吉彦副委員長、奥村美樹恵委員、佐藤幹彦委員、篠田勲委員、熊崎健二委員、阿部雄介委員、杉山幹治委員、尾関加奈子委員
欠席委員	福島茂委員
議 題	議題1 基本理念、考え方について 議題2 他都市における新しい学校づくりの事例について 議題3 策定委員会の検討内容について（検討フロー（案））

議事録（要旨）

1. 開会宣言

2. 議題

議題1：基本理念、考え方について

事務局説明	以下の資料説明を行った。 資料1：文部科学省「新しい時代の学びを実現する学校施設の在り方について」5つの姿の方向性 資料2：各務原市教育大綱（令和2年度～令和6年度）基本理念、基本方針 資料3：各務原市学校建替え基本方針の理念・考え方について（案） 追加資料A：5つの姿のイメージ 追加資料B：各務原市総合計画後期（抜粋）
委員長	・国の大きな指針、各務原市の教育指針がある中で、「つながり」をキーワードとしたらどうかとの事務局提案について発言をお願いする。教育全般に渡ることであり、全体としては理念があり、老朽化している建物をどうするかという問題である。
委員	・つながりという視点は大事。学校に行くのがつらい弱者（つながることが難しい、勉強の進み具合が合わない、LGBTQなど）の居場所としても考えられると良い。
事務局	・各務原市は、学校への来づらさを感じる子どもへの施策を実施している。「学校以外での活動はできる子」の居場所として「あすなる教室」や「さくら」を作り、そこで親御さんの相談も受けている。また、学校においても先生が相談に乗っている。学校に来づらい生徒にとって、ICTの活用も含め、来やすくなる環境について盛り込みたい。
委員	・現在も、教室に入れないうの子のための相談室として空き教室を利用している。学級復帰のための場所や居場所づくりは、今後の学校施設には必要不可欠。

	<ul style="list-style-type: none"> ・5つの視点は良いが、学びの中での変化に対応する空間づくりが求められる。文科省の学校施設整備指針が、多様な環境のなかでひとり一台の端末、ロッカールームの活用などに対応できているのか内容を知りたい。 ・現在の机は、アイパッドと教科書を一緒に使うには広さが足りないし、机の大きさを大きくすれば、今の教室の大きさでは狭くなる。35人学級から将来的に30人学級となれば教室の数が足りなくなる。備品サイズも含め、学校施設整備方針などについても視点に入れる必要がある。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・「つながり」を重視するという中で、今まではそうあるべきで進んできたと思う。これまでは、健康で元気な子どもの視点で進んでしまうので、弱者に対する配慮を柱のひとつにしても良いと思う。 ・コロナへの配慮も考えると、机のサイズなども現実的な課題となっていると思う。文科省の指針等を整理してもらいたい。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・準備したい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・文科省の個別最適化をテーマとした勉強会で全国の事例を聞いた。各務原市でも現状の学校でできることも含め基本方針の中で考えていけると良い。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・現状の課題認識を共有し、求める教育のあり方に基づき、現状の改善も含め建替えにおける学校のあり方を整理したい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・現在の学校のなかで、社会実験的にテントを置いてみるなど、実験的な取り組みを行う予定はあるか。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・現在も、いろいろとやれることから取り組んでいる。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・今後、結果が反映されていくということか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・そのように考える。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校の算数の授業では、一斉の学びがあったり、教室内にブースを作って少人数で取り組んだり、いろいろな学び方で行っている。 ・特別支援学級では、“好きな家”を作ってもらい落ち着ける空間づくりを図ったり、通常学級においても、クールダウンできる場所の確保など、学校の実情に合わせてできることを行っている。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校の現状は、生徒数は減少傾向であるが、35人学級の導入でクラスは増え教室が不足する学校もある。そんな中で、本校では居場所のための相談室と学習のための相談室として相談室2つ設置している。また、クールダウン用の場所を、パーティションを活用するなどの工夫で確保している。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・現場でのリアルな意見が聞けるのは良いこと。先生の工夫でやっていることを引っ張り出してもらえれば、建替えの時の貴重な資料となる。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・他の学校でも個別対応の事例があれば教えていただきたい。 ・岐阜市にある不登校の児童生徒のための学校（特例校）の草潤中学校を見学した。特例校を作るまでは難しいが、各学校で少しずつ取り組まれているこ

	とを活かせる取り組みを各務原市でもできないか。
委員	・各務原市では、「さくらなか」や「さくらまえみや」などを設置し、近隣の学校にいけない場合はこれらの施設で対応している。不登校特例校は、岐阜市の施策であり、自治体により様々で、各務原で同様の特例校を公立で整備するのは難しいように思う。
委員長	・様々な意見を聞いていると支援の必要な子への配慮が手薄であったという背景があるように思うのでしっかり議論していきたい。一方、「いつまでも議論していても…」との意見がある中、現場が求めていることをしっかりと取り込んでいきたい。

議題2：他都市における新しい学校づくりの事例について

事務局説明	以下の資料説明を行った。 資料4 他都市における新しい学校づくりの事例
委員長	・議題2についてご意見やご質問などあればお願いしたい。
委員	・岐阜県北方町で2023年に開校予定で北学園、南学園という形で小中一貫校の2校を整備している。北方町の図面等も収集して参考にして欲しい。
事務局	・参考にしたい。 ・議題3で話す予定であるが、児童生徒も減少傾向でありゆくゆくは小中一貫校になることも可能性として否定できないが、現時点では、各務原市では小中一貫校の推進へは至っていない。留意事項、補足事項、巻末のまとめなど、その想いを記載できれば良いと考える。
委員	・北方町の小中学校については、校舎の耐震化や老朽化等をきっかけとし来年度から小中一貫校となる。北方小学校を建替え、小中学校と廊下でつなぎ利用している。現在、小学6年生は北方中の校舎で勉強するなど子ども達が気持ちの中でも一貫している。 ・LGBTQの視点でもトイレの色などに工夫がみられる。廊下は広く、職員室は小・中一緒となっている。 ・小中学校の視察を通し、どの学校も同じように見える。新しい基準はあるが、廊下が広いといいと感じた。 ・タブレットも想定して机を大きくすると、教室の大きさは変わらないため狭くなりそうだが、このような場合は生徒数が少ない例である。 ・ICT活用の事例もあった。
委員長	・事務局としては、小中学校を別々に整備するという意見でしたが、小中一貫の事例からもアイデアを取り込んでいけると良い。
委員	・子ども数は減っても、学級数は増えている学校もある。空き教室が全くないという学校もある。教室は確保しておく必要はある。職員室でも50名とな

	ると手狭なため、第1職員室や第2職員室などの検討もする必要がある。
事務局	・部屋が増えていくことも想定する必要があると考える。特別支援学級も増加傾向である。一方で、オープンな空間を必要とする視点もあるので、多様な空間づくりが必要と考える。
委員長	・どの学校もよく似ているのは、補助金と標準設計がセットになっているため。個別の計画に入ると、個性的な学校づくりが望まれるのではないか。

議題3：策定委員会の検討内容について（検討フロー（案））

事務局説明	以下の資料説明を行った。 資料5 各務原市学校建替基本方針策定委員会 検討フロー（案） 追加資料C：適正規模適正配置基本計画抜粋・学校別学級数イメージ図 （追加資料D：発達段階ごとの特徴と重視すべき課題）
委員長	・学校施設としては、大小さまざまだが適正規模をイメージしながら議論を進めたいとのことだが、どうか。
委員	・追加資料Cの5頁の適正規模から既に外れている学校もある。今後の方針として、適正規模より少なくなっている学校についても、その人数に応じて建て替えを進めるのか。それとも、合併を考えているのか。
事務局	・学校ごとに事情があると思う。人数が少なくなるときめ細かな指導ができるなどのメリットもある。また、学校施設が地域の拠点、防災の拠点にもなるため、地域の同意も必要となる。この委員会で合併について議論することは難しく、ここでは各務原市としてこれからつくる学校に、一定の教育を確保するための規模や施設についての議論ができるとよい。
委員	・緑苑小学校と稲羽東小学校について、来年度より市内全域から入れる特例（小規模特例校として指定）を作っている。
委員	・小規模の学校を建替えるのかという議論になる。方針が知りたい。
事務局	・個別の建替えはむずかしいが、ここではあるべき姿の各務原市としての理想像を皆さんと議論して形作りたい。
委員	・資料5の検討フローに対して、各務原市独自の「つながり」という「視点や個別最適の注目ポイント」や「ICTという環境を整備」などの各務原市として大事にしたていきたいことはどこで議論するのか。
事務局	・各務原らしさというのが非常に難しいと感じている。もちろん「つながりづくり」を大事にする。岐阜県下では、郷土を愛する心の育成と重要と考えふると教育に力を入れている。検討フローの中では、様々な場所からむと思いが、特に第3・4回の多様な学習活動を展開できる教室空間や第9回・第10回などでは、様々なことが絡んでくるのではないか。
委員	・その都度議論するということで理解した。

委員長	・議題内容の中で意図的に考えてもらいたい。全体の中でその都度だと忘れてしまうのではないか。
委員	・検討フローの中で、プールについて2回議論の場がある。プールが要るか要らないかの話なのか、それとも作るとしたらどうするかという議論か。
事務局	・想定するのは、市としてプールをどうしていくかの方向性を示すこと。各務原市のプールは、地区により事情が違う。民間施設のプールがある地区もあれば、ない地区もある。様々な方策を出していただき、いろいろな可能性の提言としてまとめたい。
委員長	・全体のバランスの中でプールのあり方に2回はいらなと思う。
委員	・屋上プールの事例があるが、これは確実に作るケース。市内の中学校は、コロナ禍の中でプール指導は行っていない。特に大規模校はやれない。小学校はやったところもある。着替え部屋や更衣室、コロナ禍での利用上の問題がある。年間に1~2回だけになる。ここでプールの必要性を検討する必要があるのか。
事務局	・様々な課題があり大きな施設でコストもかなりかかるため、ざっくりでも触れておきたい。プールに2回の必要がなければ別のテーマに移る。
委員	・検討すると良い重要な項目をみなさんと話すと良いと思う。私は、一人ひとりの個別最適やICTについて検討ができると良い。
委員長	・プールについては、何を議論するのか整理してもらいたい。 ・項目としては、教職員の職場環境の議論もあると良い。 ・各務原としての特色を議論しておく必要がある。
委員	・地域の学校開放について、各務原市でも保護者クラブに移行している。民間スポーツクラブでやっているところもある。学校施設としては、地域住民が施設を使えるかの議論ができると良い。
委員長	・第9回・第10回あたりで議論できると良い。
委員	・今後もテーマを思いつかれたら教えてもらいたい。
委員長	・2年間あるので柔軟に対応することが必要。
委員	・プールよりも、グラウンド（体育館含む）について話題にしていきたい。
委員	・学校の先生の困りごと、窓ガラスの清掃など、現場サイドで困っていることを出してもらうのも良い。
委員	・教職員の職場環境は是非お願いしたい。教職員の職場改革、ラウンジなどの休憩スペース。本日見せていただいた他都市の学校施設では掃除はどうしているのかなどを教えてほしい。
事務局	・今後、アンケートを実施する予定がある。内容については、第3回、第4回で相談させて頂く。今のところ、前半は学校施設、後半は地域での学校のあり方、でどうか検討中である。

委員長	・現場の先生方の意見も聞いてみたい。
事務局	・アンケートの考え方を第3回でお示しする。
委員	・学び舎が地域開放されていると、地域の拠点になったり災害時にも様子が変わった場所へ避難ができる。そういったことも、検討してもらいたい。
委員	・アンケートを取るについて、困りごとを解決する視点とともに、未来に向けた意見を伺いたい。

3. 今後のスケジュール（予定）

第3回策定委員会は、令和4年12月28日（水）13:30～15:30を予定。会場は、今回と別の場所の産業文化センター7階の会議室（7-1）になる。正式には、開催日の1か月前頃の案内となる。

後日、各委員へ議事録の確認と次回の委員会資料を郵送することとする。

以上